

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百十二號

昭和十八年六月十二日(土)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房人第一一九六號

補充兵及第二國民兵ヲ召集スル際鎮守府司令長官ニ於テ指定ノ參著期日以外ニ參著期日ヲ定ムル要アル場合ハ昭和十七年官房第四二二一號ヲ準用スルコトヲ得

昭和十八年六月十日

海軍大臣

(參照) 昭和十七年官房第四二二一號ハ新兵ノ入團(隊)ニ際シ入團(隊)期日以外ニ參著日ヲ定ムル場合ニ關スル件ナリ
(諸例則卷二 七二二ノ一〇頁)

官房經第六七四號

當分ノ間准士官ヨリ特務士官ニ任用セラレタル者ニ支給スベキ俸給ニ關シ海軍給與令第一表備考第四號ノ規定ニ依リ准士官トシテ受ケタル俸給ニ加算スベキ同令第三十四條第二項ノ加俸ハ其ノ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

海軍諸例
則登載

昭和十八年六月十一日

海軍大臣

○ 通 牒

官房人機密第二五五號

昭和十八年六月十日

海軍省副官

各廳長殿

現役海軍士官名簿電報符號使用期日ノ件
通知

昭和十七年十一月一日調現役海軍士官名簿(上、下卷共)ノ電報符號使用開始期日ヲ六月十五日ト定メラレ候

○ 辭 令

通信事務官 鬼丸 光雄

第六海軍軍用郵便所長ヲ免ス(海軍省)

海軍公報 (部内限) 第四千四百十二號

昭和十八年六月十二日

五八九

0444

商工屬 南 秀治

第二南遣艦隊司令部附ヲ免ス(六月同)

海務局事務官補 早川 利夫
名古屋海軍監督官事務所名古屋商船部ニ要スル經費
支拂ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス

同 地木 四百

神戸海軍監督官事務所神戸商船部ニ要スル經費支拂
ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス

同 八尋 金吾

八幡海軍監督官事務所門司商船部ニ要スル經費支拂
ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス

同 廣谷 市松

室蘭海軍監督官事務所函館商船部ニ要スル經費支拂
ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス(以上ハハハ支出官海軍
省經理局長)

○ 雜 款

○六月一日任命ノ飛行機整備學生(入隊場所追濱航空
隊)ハ六月十二日、兵器整備學生(入隊場所洲ノ崎航
空隊)ハ六月二十一日始業式施行豫定ニ付其ノ前日迄
ニ入隊セシメラレ度

(第十八聯合航空隊司令部)

○練習生採用試験問題送付ニ關スル件
當隊所在遠隔並ニ交通不便ナル爲首題ノ件期日迄ニ間
ニ合ザル事屢有之候ニ付テハ爾今急送扱トシ左ニ依リ
發送相成度
横須賀局氣付

第二十八海軍軍用郵便所第一派出所氣付

七壹貳 七參六
(第四警備隊)

○家族移轉料支給上ノ勤務地指定ノ件

昭和十六年官房第七二一號ニ依ル首題ノ件左ノ通

第十二航空艦隊司令部 横濱市
第二十四航空戰隊司令部 木更津市

○事務所設置

前島艦裝具事務所ヲ六月七日鶴見造船所内ニ設置シ事
務ヲ開始セリ

○事務開始

第三十六設營隊ハ五月三十一日横須賀海軍建築部内ニ
於テ事務ヲ開始セリ

○司令旗撤去

第十三潜水隊司令ハ五月三十一日司令旗ヲ撤去セリ

○事務所撤去
特務艦山霜丸事務所ヲ六月三日撤去セリ

第九十一驅潜隊殘務整理事務所ヲ六月七日撤去セリ
追テ庶務關係書類ハ第九特別根據地隊ニ、其ノ他ハ
吳鎮殘務整理班ニ保管ス

○正誤

六月八日附公報(部内限) 辭令欄中「海軍技手支村上
三郎」及「第四海軍建築部クエゼリン派遣員ニ要スル」
トアルハ何レモ「海軍技手友村伊三郎」及「第四海軍
建築部ルオット派遣所ニ要スル」ノ、「海軍主計中佐久
良木利一辭令文中「経距」ハ「経費」ノ、「品距」ハ
「品費」ノ孰モ誤

0446

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百十三號

昭和十八年六月十四日(月)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房需機密第三三九號

大東亞戰爭中海軍軍需部長ハ燃料及潤滑油ヲ南方占領地ニ於ケル民需用トシテ民政府又ハ民政部(支部及出張所ヲ含ム)ニ供給スルコトヲ得
實施ニ關シテハ海軍省軍需局長及海軍省經理局長ヲシテ別ニ通牒セシム

昭和十八年六月十二日

海 軍 大 臣

官房需第一三一號

艦營需品定額表中數量別表ノ通改正ス

昭和十八年六月十二日

海 軍 大 臣

運用用長主管

別表ノ通

(別表添)

官房需第一三三號

當分ノ間海軍給與令施行細則第二百二十二條ニ依リ給與スル黃雙ハ同細則第二十表備考第二十五號但書又ハ同第二十表ノ二基本食調味及調理用品ノ部黃雙ノ項記事欄但書ノ規定ニ拘ラズ同量額ノ白砂糖ニ換給スルコトヲ得
昭和十八年六月十二日
海軍省 官房需 第二三九號

昭和十八年六月十二日

海 軍 大 臣

官房人第一二〇四號

海軍省 官房人 第一二〇四號 則登載

當分ノ間乙種飛行豫科練習生(特)タル飛行兵及同出身ノ飛行兵ノ進級ハ海軍兵進級規則第三條、第四條、第四條ノ二、第五條及第八條乃至第十三條ノ規定ニ拘ラズ右各號ニ依リ所轄長之ヲ進級セシムベシ
海軍練習航空隊規則ニ依ル乙種飛行豫科練習生(特)修業期間三月ヲ經過シタルトキ一等飛行兵ニ、入隊後一年ヲ經過シタルトキ上等飛行兵ニ、二年ヲ經過シタルトキ飛行兵長ニ進級セシム

海軍公報 (部内限) 第四千四百十三號 昭和十八年六月十四日

五九三

0447

延期修業ノ爲次期編入ト爲リタル者ニ在リテハ新ニ編入セラレタル期ノ者ト同一トス

二 現職階中ノ勤務日數(海軍武官進級令第九條ノ規)其ノ經過日數ノ三分ノ二ニ達セザル者(前號第一項ノ規定ニ該當スル乙種飛行豫科練習生(特)タル修業期間ノ者ヲ除ク)又ハ勤務ノ成績不良ナル者ハ進級セシメザルモノトス此ノ場合ニ於テハ所轄長ハ豫メ所屬長官ノ認許ヲ受ケ之ヲ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ通報スルモノトス

三 前號ノ規定ニ該當シ進級セシメザリシ者ニシテ進級ヲ至當トスルニ至ラバ所轄長ハ所屬長官ノ認許ヲ受ケ月ノ一日又ハ十六日ニ於テ進級セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ通報スルモノトス

昭和十八年六月十四日

海軍大臣

○通牒

經物第九七號

昭和十八年六月十一日

關係各廳長殿

海軍省經理局長

前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件

通知

昭和十七年經物第一三五號第一第二項ニ依ル首題ノ件左記ノ通承認致候

記

會社名	所在地
株式會社三吉鍛工所	東京市蒲田區羽田本町三四七
日本測定器株式會社	東京市京橋區月島東伸通七ノ四
福岡航空部品株式會社	東京市麴町區平河町二ノ一
興亞ゴム工業株式會社	廣島市楠木町三ノ四四五ノ一
株式會社藤木工務店	大阪市東區兩替町一ノ一七
遠藤工業株式會社	新潟縣西蒲原郡燕町東太田四九五四ノ四
橫澤榮四郎(組)	上海狄思威路東洋街二一九號
株式會社影山機械製作所	浦和市大字大谷口二四三
後藤車體製造株式會社	東京市芝區芝浦二ノ一

0448

マルキ號株式會社	京都府宇治郡東宇治町字五ヶ庄一里塚一五
大江工業株式會社	東京市芝區芝浦二ノ三ノ四
株式會社今泉精機製作所	東京市葛飾區本田立石町四五
宮原機械株式會社	東京市日本橋區通一ノ二
日本燃化機製造株式會社	川崎市櫻木町二ノ一九
板橋之進 (大森鐵工所)	東京市板橋區志村長後町一四四七
日本鋼鐵工業株式會社	東京市麴町區丸ノ内二ノ二
興亞化工株式會社	東京市日本橋區通二ノ一
株式會社小出機械製作所	大阪市東成區片江町三一九
鈴木金屬工業株式會社	東京市城東區龜戶町一ノ八〇
株式會社東洋空機鐵工所	大阪市東成區深江中二ノ三〇

軍需機密第六〇九號

昭和十八年六月十四日

關係各廳長殿

海軍省經理局長
海軍省軍需局長

南方占領地ニ於ケル民需用燃料及潤滑油
供給及整理ニ關スル件通牒

官房需機密第三三九號訓令ニ依ル南方占領地海軍軍政主擔任地域ニ於ケル民需用燃料(石油製品及石炭)及潤滑油ノ供給及整理ハ左記要領ニ依リ實施相成度

記

一 石油製品タル燃料及潤滑油ノ供給數量ハ中央ニテ決定セララルル年度石油物資動員計畫中南方民需(海軍主擔任地域)ノ數量ニ基キ關係ノ向ニ通知ス但シ軍需用ニ支障ナキ限り必要ニ應ジ本數量ノ範圍外ニテモ取得スルコトヲ得

二 民政府又ハ民政部(支部及出張所ヲ含ム以下海軍民政機關ト稱ス)ハ前號ノ數量ニ基ク各其ノ割當數量ヲ同一所屬管下ノ海軍軍需部(特設海軍軍需部及同支部、同出張所ヲ含ム以下同ジ)ニ要求シ之ガ供給ヲ受クルモノトス

三 海軍軍需部前號ノ要求ニ應ジ供給ヲ爲サントスルトキハ海軍民政機關ノ通常物品ニ無償ニテ保管轉換シ數量整理ノミヲ行フモノトシ被供給者ノ發行スル受領證寫ヲ添ヘ各一月分ヲ取纏メ之ヲ海軍省軍需局及海軍省經理局ニ通知スルモノトス

海軍公報(部内限)第四千四百十三號 昭和十八年六月十四日

五九五

0449

四 海軍民政機關ハ民政上ノ所要ヲ勘案ノ上必要ノ向ニ有償拂下(己ムヲ得ザル場合ハ無償讓渡シ得ルモノトス)ヲ爲シ其ノ數量及供給先ヲ各一月分取纏メ海軍省軍需局及海軍省經理局ニ通知スルモノトス有償拂下代價ハ之ヲ臨時軍事費特別會計ノ歳入ニ納付スルモノトス

五 前號ノ拂下價格ハ民政實施及經濟開發ノ必要ヲ考慮ノ上海軍省軍需局長ノ通牒スル單價ヲ基準トシ所屬長官ノ認許ヲ受ケ民政府總監(民政府ニ屬セザル民政部ニ在リテハ所屬ノ特別根據地隊司令官)之ヲ定メ海軍省軍需局長及海軍省經理局長ニ通報ルモノトス

六 石炭ノ供給ニ關シテハ前各號ニ準ズルモノトス

○ 辭令

四千六百八拾圓	渡邊 晶次郎
四千四百六拾圓	村田 保
貳千四百六拾圓	若林 正一
貳千貳百八拾圓	伊藤 啓三
(各通) 貳千貳百八拾圓	小牧 十見雄

千七百四拾圓	柴山 巖
千六百八拾圓	垂水 憲吉
徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限委任官待遇トス(豫計海軍省)	
千四百四拾圓	大野 莊兵衛
(各通) 九百圓	辻村 銑一
徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限委任官待遇トス(同)	
遞信局事務官	古屋 芳政
父島海軍通信隊附ヲ免ス(同)	遞信技手 下釜 美之
南西方面艦隊司令部附ヲ免ス(同)	休職海軍技手 角田 榮太郎
復職ヲ命ス	海軍技手 角田 榮太郎
海軍航空本部勤務兼造兵監督助手ヲ命ス(以上同)	
同)	海軍主計中尉 山上 祐三
驅逐艦太刀風ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(同)支出官 海軍省經理局長)	

同 林 陽一
南西方面海軍航空廠ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

同 松本 脩
右同分任出納官吏ヲ免ス(以上同)

同 中村 良雄
第百二海軍燃料廠ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

同 立野 良郎
右同分任出納官吏ヲ免ス(以上同)

同 力石 五郎
南西方面海軍航空廠第一支廠ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

同 吉野 讓
右同分任出納官吏ヲ免ス(以上同)

海軍主計兵曹長 大江 房次
特務艦荒埼ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(以上同)

海軍大佐 岡田 有作(艦 本)
同 矢野 京松(佐 工廠)

(各通)

海軍少佐 鈴木 清臣(同)
同 佐藤 作馬(呂三七潛)
海軍中尉 江上 澄(同)
同 坂口 治三郎(同)
呂號第三十七潜水艦審議委員ヲ命ズ(以上同)海軍艦政本部

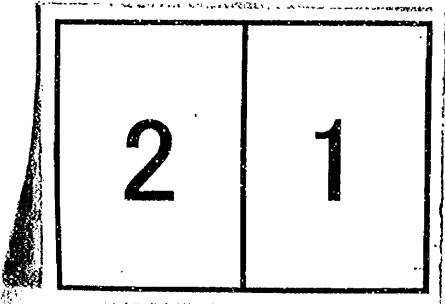
○ 雜 款

○事務所設置
第二八掃海艇裝具事務所ヲ六月七日吳工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○殘務整理
第十設營隊(舊登川部隊)殘務整理ハ六月五日ヨリ海軍施設本部補給部ニ於テ事務ヲ開始セリ

○正誤
六月五日附公報(部内限)通牒欄海人第三〇號ノ一五中「現認證明書八通(恩給關係共)」ハ「事實證明書(恩給取扱手續第五書式)八通」ノ誤

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	各艦艇備品配分表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

(別表)

類別	品名	数量	艦																	
			一等潜水艦	二等潜水艦	海防艦	水雷艦	掃雷艇	哨戒艇	工務艦	送給艦	砕氷艦	測量艦	標的艦	練習艦	練習艦	練習艦	練習艦	練習艦	練習艦	
第一類	組	8																		
	個	9																		
	個	23																		
	個	23																		
	個	24																		
	個	29																		
	個	29																		
	個	29																		
	個	31																		
	個	31																		
	個	1																		
	個	4																		
	米	5																		
	個	6																		
個	7																			
個	8																			
個	11																			
個	12																			
個	13																			
個	13																			
個	14																			
個	14																			

(昭和十八年六月十四日海軍公報(部内限))

0453 0452

海軍公報

(部内限) 第四千四百十四號

昭和十八年六月十五日(火)

海軍大臣官房

○令達

昭和十八年六月十二日

海軍大臣

官房人機密第二六五號

所屬長官ハ六月三十日現在員(特ニ指定スル者ヲ除ク)ニ付左記標準ニ依リ臨時賞與ヲ支給スベシ

昭和十八年六月十二日

海軍大臣

記

區分

賞與額(本俸又ハ給料ニ付)

軍人 <small>(昭和十八年四月一日以後新ニ兵籍ニ入り又ハ入隊ノ兵ヲ除ク)</small>	一月分以内
文官 同 待遇者	一月分以内
囑託者 <small>(一時ノ報酬ヲ受クル者及本官アル者ヲ除ク)</small>	一月分以内
雇員 備人 <small>(月給者)</small>	一月分以内
同 <small>(日給者)</small>	三十日分以内

官房經第六七九號

昭和十八年官房經第四三七號中左ノ通改正ス

海軍公報(部内限) 第四千四百十四號

昭和十八年六月十五日

五九九

0454

第一號中「(學生生徒ノ手當ヲ含ム以下之ニ同ジ)」ヲ削リ、「給料(報酬ヲ含ム以下之ニ同ジ)又ハ賃錢(基本賃錢ノミ以下之ニ同ジ)」ヲ「又ハ給料(報酬ヲ含ム以下之ニ同ジ)」ニ改ム

第二號中「給料又ハ賃錢」ヲ「又ハ給料」ニ改メ同號ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ陸海軍ニ於テ受クル俸給トハ陸軍給與令第一表、第三表及第四表並ニ海軍給與令第一表及同令第五十一條ニ依ル俸給及手當ヲ謂フ

第三號中「給料及賃錢」ヲ「及給料」ニ、「給料又ハ賃錢」ヲ「又ハ給料」ニ、「給料又ハ賃錢」及「給料及賃錢」ヲ「給料」ニ改ム

第四號及第六號中「給料又ハ賃錢」ヲ「又ハ給料」ニ改ム

第九號ヲ第十號トシテ第八號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

九 海軍豫備學生、海軍豫備練習生又ハ海軍豫備補

習生タル期間ハ俸給又ハ給料ノ補給ニ關シテハ之ヲ徵集中ト看做ス但シ昭和十八年閣令第五號第一條第二項ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(參照) 昭和十八年四月二十二日海軍公報(部内限)

官房需第一三三號

昭和十七年官房第二三七八號中「主計長又ハ主計科准士官以上ノ乘員」ヲ「兵備品取扱主任」ニ改ム

昭和十八年六月十四日

海軍大臣

(參照) 昭和十七年官房第二三七八號(昭和一七、四、一八海軍公報(部内限))

○通牒

官房經第六八〇號

昭和十七年官房第七一三七號中左ノ通改正ス

昭和十八年六月十二日

海軍次官

第四號第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ六月及十二月ノ賞與ヲ以テスル貯蓄ハ之ヲ國債、貯蓄債券又ハ報國債券ノ買入ニ充ツルモノトシ

之ガ買入額計算上端數ノ金額ハ貯金ト爲スモノトス
附則
本令ハ昭和十八年六月一日ヨリ之ヲ適用ス

(參照) 昭和十七年十二月二日海軍公報(部内限)

官房第三六五號

昭和十八年六月十四日

海軍省副官

各鎮守府、警備府副官殿

兵器簿及艦營需品定額表發布取扱ニ關スル件申進

所屬長官ニ通達セラルル兵器簿及艦營需品定額表ハ鎮守府、警備府ニ於テ關係應長ニ傳達セラレタル處自今現品ハ海軍艦政本部、海軍航空本部ノ各主務部長及海軍省軍需局長ヨリ一括關係ノ海軍軍需部長又ハ海軍航空廠長等ニ直送スルコトニ定メラレ候

追テ海軍艦政本部、海軍航空本部ノ各主務部長及海軍省軍需局長ヨリ現品送付ニ要スル書類ハ所屬長官ニ通達セラルル書類ノ寫ヲ以テ之ニ充テラレ候

官房備機密第一四五號ノ五

昭和十八年六月十五日

海軍省 副官

各廳長 殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房備機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

内令規
要登載

附録所在地區別符表(其ノ一)中「武藏灣」ヲ壹貳六」ヲ加フ

同・部隊區別符表(其ノ一)中「館山航空隊山田灣派遣隊」ヲ六五」横鎖第二特陸」ヲ六六」ヲ加フ

同(其ノ三)中「佐世保航空隊海南派遣隊」ヲ壹九」大井航空隊上海分遣隊」ヲ參參」大井航空隊青島分遣隊」ヲ參七」ヲ加ヘ

同(其ノ四)中「第三十六設營隊」ヲ壹四」吳鎮第八特陸」ヲ壹五」ヲ加フ

海人機密第三〇號ノ七五

昭和十八年六月十二日

關係各所轉長殿

海軍省 人事局長
海軍省 經理局長

海軍公報(部内限) 第四千四百十四號

昭和十八年六月十五日

六〇一

臨時賞與支給ニ關スル件申進

本年官房人機密第二六五號ニ依ル臨時賞與ハ左記ニ依リ取扱フモノト了知相成度

記

一 本年四月一日ヨリ同六月三十日迄ノ日數ヲ本賞與ノ期間トス

二 六月三十日現在ニ於テ未ダ戰死(戰傷死又ハ戰病死ヲ含ム)公表セラレズ俸給又ハ給料ヲ受ケツツアル者ニ對シテハ在籍應(俸給又ハ給料ノ家族渡ヲ受ケツツアル者ニ對シテハ家族渡應)ニ於テ支給ス

三 海軍文官同待遇者、囑託者又ハ雇員備人ニシテ在籍ノ儘海軍ニ徵集又ハ召集セラレ本年六月三十日ニ於テ海軍軍人タルモノニ對シテハ海軍文官同待遇者、囑託者又ハ雇員備人タル身分ニ於ケル俸給、報酬金又ハ給料ニ付徵集又ハ召集中ノ日數ヲ除算シタル勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ在籍應ニ於テ支給シ徵集又ハ召集中ノ海軍軍人タル身分ニ於ケル俸給ニ付徵集又ハ召集中ノ勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ現所屬應ニ於テ支給ス

四 海軍文官同待遇者、囑託者又ハ雇員備人ニシテ在

0456

籍ノ儘海軍ニ徴集又ハ召集セラレ本年六月三十日以前ニ離現役又ハ召集ヲ解除セラレ在籍應ニ復歸シタル者ニ對シテハ本年六月三十日現在ノ海軍文官同待遇者、囑託者又ハ雇員備人タル身分ニ於ケル俸給、報酬金又ハ給料ニ付徴集又ハ召集中ノ勤務日數ヲ通算シ算出シタル金額ヲ在籍應ニ於テ支給ス

五 海軍文官同待遇者、囑託者又ハ雇員備人ニシテ在籍ノ儘陸軍ニ徴集又ハ召集セラレ本年六月三十日ニ於テ徴集又ハ召集中ノ者又ハ其ノ以前ニ於テ離現役又ハ召集ヲ解除セラレ在籍應ニ復歸シタル者ニ對シテハ本年六月三十日現在ノ海軍文官同待遇者、囑託者又ハ雇員備人タル身分ニ於ケル俸給、報酬金又ハ給料ニ付徴集又ハ召集中ノ日數ヲ除算シタル勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ在籍應ニ於テ支給ス

六 海軍軍人ニシテ大東亞戰爭ニ關シ陸軍ノ勤務ニ從事セシメラレタル者ニ對シテハ陸軍ニ於ケル勤務日數ヲ通算シ算出シタル金額ヲ海軍ノ在籍應ニ於テ支給ス

七 本賞與期間内ニ於テ二回以上召集セラレタル者ノ召集中ノ日數ハ其ノ前後ノモノヲ通算ス

八 海軍文官同待遇者ニシテ昭和十六年勅令第八百四

號ノ規定ニ依リ海軍ノ勤務ニ從事シ本年六月三十日ニ於テ海軍軍人タル者ニ對シテハ海軍文官同待遇者タリシ身分ニ於テ最後ニ受ケタル俸給ニ付海軍文官同待遇者トシテ勤務シタル日數ニ應ジ算出シタル金額ト海軍軍人タル身分ニ於ケル俸給ニ付昭和十六年勅令第八百四號ニ依ル勤務日數ニ應ジ算出シタル金額トノ合計金額ヲ現所屬應ニ於テ支給ス

九 海軍文官同待遇者ニシテ昭和十六年勅令第八百四號ノ規定ニ依リ海軍ノ勤務ニ從事シ本年六月三十日以前ニ其ノ勤務ヲ解除セラレ再ビ海軍文官同待遇者ト爲リタルモノニ對シテハ本年六月三十日現在ノ海軍文官同待遇者タル身分ニ於ケル俸給ニ付昭和十六年勅令第八百四號ニ依ル勤務日數ヲ通算シ算出シタル金額ヲ現所屬應ニ於テ支給ス

十 囑託者又ハ雇員備人ニシテ在籍ノ儘昭和十六年勅令第八百四號ノ規定ニ依リ海軍ノ勤務ニ從事シ本年六月三十日ニ於テ海軍軍人タル者ニ對シテハ囑託者又ハ雇員備人タル身分ニ於ケル報酬金又ハ給料ニ付勅令第八百四號ニ依ル勤務日數ヲ除算シタル勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ在籍應ニ於テ支給シ海軍軍人タル身分ニ於ケル俸給ニ付昭和十六年勅令第八

百四號ニ依ル勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ現所
屬廳ニ於テ支給ス

十一 囑託者又ハ雇員傭人ニシテ在籍ノ儘昭和十六年
勅令第八百四號ノ規定ニ依リ海軍ノ勤務ニ從事シ本
年六月三十日以前ニ其ノ勤務ヲ解除セラレ在籍應ニ
復歸シタル者ニ對シテハ本年六月三十日現在ノ囑託
者又ハ雇員傭人タル身分ニ於ケル報酬金又ハ給料ニ
付昭和十六年勅令第八百四號ニ依ル勤務日數ヲ通算
シ算出シタル金額ヲ在籍廳ニ於テ支給ス

十二 昭和十六年勅令第二百四號ニ依リ部外ノ文官
同待遇者ヨリ海軍文官同待遇者ニ轉官職セシメラレ
タル者及明治三十八年勅令第四十三號ニ依リ所屬官
廳ノ定員外ト爲リ海軍ニ勤務セシメラレタル者(以
下臨時職員ト稱ス)ニ對シテハ年末年度末賞與内規
第四條ノ規定ニ拘ラズ左ニ依ルモノトス
(イ) 五月三十一日現在ニ於テ臨時職員タリシ者ニ對
シテハ本賞與ノ全期間勤務セシモノト看做シ賞與
金全額ヲ支給ス

(ロ) 五月三十日以前海軍ヨリ轉出シタル臨時職員及
六月一日以後臨時職員トシテ海軍ニ轉入シ來レル
者ニ對シテハ支給セズ

經監一機密第八號ノ一〇

昭和十八年六月十五日

海軍省 經理局長

各海軍經理部長
各特設海軍經理部長
各支官
各出納官吏

計算證明等ノ取扱ニ關スル件通牒

昭和十七年經監一機密第一一八號通牒(十一月二十五日海
軍省機密會計法規)首題ノ件中計算證明等取扱要領第
一〇號ノ次ニ左記ノ如ク追加致候

記

一一 俸給旅費其ノ他ノ給與ノ過不足拂ニ付之ガ自覺
報告ヲ作成シタルモノニシテ其ノ處分ヲ爲スコト不
可能又ハ極メテ困難ナルモノニ付テハ海軍會計監督
規程ニ定ムル監督ノ區分ニ從ヒ海軍省經理局長又ハ
海軍經理部長若ハ特設海軍經理部長ニ於テ事情已ム
ヲ得ザルモノト認メタル場合ニ限リ計算證明上之ヲ
其ノ儘据置整理ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其
ノ旨記載シタル處分報告ヲ提出スルコト
一二 海軍經理部長(艦船部隊殘務整理班ヲ置ク鎮守
府所屬ノ海軍經理部長ヲ除ク)又ハ特設海軍經理部

0458

長艦船部隊ノ會計殘務整理ニシテ地理的又ハ其ノ他ノ事情ニ由リ鎮守府ニ屬スル艦船部隊殘務整理班ニ於テ之ヲ爲スヨリモ寧ロ現地又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヲ便宜ト認ムルモノニ付テハ順序ヲ經テ艦船部隊殘務整理班ヲ置ク鎮守府所屬ノ海軍經理部長ト協議シ其ノ會計殘務整理ヲ該艦船部隊ニ於テ爲サシメ又ハ海軍經理部(艦船部隊殘務整理班)置ク鎮守府所屬ノ海軍經理部長ヲ除ク)若ハ特設海軍經理部ニ於テ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル整理手續ニ付テハ艦船部隊殘務整理班ニ於ケル會計殘務整理規程第二條乃至第四條ノ規定ヲ準用スルコト

(參照) 海軍機密會計法規類集六四ノ六頁

教育機密第一六五號

昭和十八年六月十日

海軍省教育局長

- 各鎮守府參謀長
 - 各艦隊參謀長
 - 各警備府參謀長
 - 各海軍練習聯合航空總隊參謀長
 - 海軍係各所轄長
- 殿
- 普通科特技章附與第一回銓衡試驗施行ノ件照會

昭和十八年六月一日官房教機密第一三一號ノ規定ニ依ル首題ノ件ハ今回限り七月下旬乃至八月中旬ニ施行ノコトニ取計相成度

海功調機密第二〇號

昭和十八年六月十五日

海軍功績調查部長

各廳長殿

功績明細書進達(移牒)ニ關スル件申進
今般内令第六六號ニ依リ海軍功績調查規程制定セラレ候ニ就テハ他廳ヨリ移牒ヲ受ケ現在各廳ニ保管中ノ功績明細書ハ同規程第十一條ノ區分ニ從ヒ速ニ進達若ハ移牒相成度

追テ昭和十七年六月十三日附人祕第五號ノ二大東亞戰爭功績明細書取扱ニ關スル人事局長申進ハ廢止セラレ候

○辭令

大順丸船長 竹内 龜吉
囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額貳千四百拾貳圓ヲ給ス(臨時海軍省)

(各) 貳千貳百八拾圓 北見丸船長 八十島 毅
 (通) 千六百貳拾圓 同 機關長 久永 正一
 囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命シ報酬年額(各頭書
 ノ通)ヲ給ス(昭和十七年同)

龍田丸 船長 木村 庄平
 同 一等運轉士 小楡山 秀雄
 同 二等運轉士 石塚 兵衛
 同 機關長 柳澤 征次
 同 首席一等機關士 鬼嶋 順衛
 同 次席一等機關士 中塚 龜夫
 同 首席二等機關士 石井 幸七
 同 次席二等機關士 西川 一男
 同 三席二等機關士 原田 源之助
 同 四席二等機關士 舟生 保男
 同 五席二等機關士 西原 利武
 同 首席三等機關士 田中 長一
 同 次席三等機關士 江口 龍四郎
 同 三席三等機關士 蛇子 金悟
 同 首席電機士 藤野 定治
 同 事務長 石渡 熊藏
 同 首席事務員 谷本 遷

同 船醫 栗村 一雄
 同 無線電信局長 古山 建次
 囑託ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(昭和十七年同)

第八艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(昭和十七年同)

(各通)

水路部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
 (昭和十七年海軍省)

(各通)

海軍航空本部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク

支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上昭和十七年同)

(各通)

自今報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給ス

海南海軍建築部醫療業務囑託
 貳千六百五拾圓 山口 則明
 貳千參百圓 小宅 洋

0460

高雄海軍航空隊齒科治療業務囑託

中間 衛

自今報酬年額千六百五拾圓ヲ給ス

大阪警備府齒科治療業務囑託

中川 喬章

自今報酬年額千八百貳拾圓ヲ給ス(以上同)

(各通) 貳千六百圓

千八百貳拾圓

海軍省軍務局ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス(以上同)

新田 保榮

第六十二海軍航空廠工員養成所教務ヲ囑託ス

但シ報酬年額八百四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス(以上同)

海軍省事務囑託

豊田 久二

自今報酬年額千貳百圓ヲ給ス(以上同)

篠塚 修之

尾上丸船醫囑託ヲ解キ吳海軍港務部ニ於ケル醫療業

務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

(各通) 參千六百圓

貳千四百圓

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス

山根 正二

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千九百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス(以上同)

長瀬 邦三

第二海軍燃料廠總務部事務兼工員養成所教務ヲ囑託

ス

但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇

トス(以上同)

矢島 安造

支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(以上同)

田崎 正男

第一南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

ス(五日同)

(各通)

田中 四郎
飯島 幡司
西山 哲三郎

海軍省事務ヲ囑託シ部内限勅任官待遇トス(五日同)

軍令部ニ於ケル調査事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

大河原 武

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上五日同)

遞信屬 水野 勝利

海軍省事務ヲ囑託ス(五日同)

(各通) 岡本 禹一
山田 正

第一南遣艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク

第五艦隊齒科治療業務囑託

大庭 秀一
海軍潜水學校齒科治療業務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

海南警備府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上五日同)

(各通)

沼津海軍工廠ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

中村 仁

沼津海軍工廠工員養成所敎務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

佐野 九二松

第三百三海軍經理部兼第三百三海軍軍需部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

布引 小太郎

マカツサル地方海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

小島 謹也

(各通)

自江 廣
石井 轉
佐々木 亮壽

海軍公報(部内限)第四百十四號

昭和十八年六月十五日

六〇七

0462

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス 牟田 邦基

讃岐丸ニ於ケル通信事務囑託ヲ解ク 渡邊 三郎

第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス 鈴木仙太郎
但シ報酬年額貳千七百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

第十一海軍航空廠工員養成所教務ヲ囑託ス 河原 正志
但シ報酬年額千百參拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

第十一海軍航空廠工員養成所教務ヲ囑託ス 栗原 祥二
但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上^{十六}同)

軍令部出仕海軍少佐 佐藤 欣重
第二部第三課勤務ヲ命ス
軍令部出仕海軍大尉 谷口 靖二
特務班班員ヲ命ス(以上^{十六}軍令部)

軍令部出仕海軍少佐 井上 正夫
第一部第十二課勤務ヲ命ス

同 山口 史郎
第一部第一課勤務ヲ命ス

軍令部出仕兼部員海軍少佐 藤森 康男
第一部第一課兼同第十二課勤務ヲ命ス

軍令部出仕海軍少佐 神川 茂紀
第二部第三課勤務ヲ命ス

軍令部部員海軍少佐 與倉 三四三
第三部第五課勤務ヲ命ス(以上^{十六}同)

軍令部出仕海軍少佐 今井 信彦
第三部第五課勤務ヲ命ス(以上^{十六}同)

海軍少佐 藤森 康男
參謀部第一部第一課兼同第十二課勤務ヲ命ス

同 與倉 三四三
參謀部第三部第五課勤務ヲ命ス(以上^{十六}大木營海軍部)

海軍少佐 今井 信彦
參謀部第三部第五課勤務ヲ命ス(以上^{十六}同)

海軍主計中尉 柿沼 幸一郎
第二課勤務ヲ命ス(以上^{十六}海軍省兵備局)

0463

(各通)

第二課勤務ヲ命ス

海軍大佐 若槻 龍三
海軍少佐 武市 義雄

同 古田 豊作

第四課勤務ヲ命ス(以上六回同)

同 岩部 六郎

第二課勤務ヲ命ス(三回同)

美農谷 耕

海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬月額五拾圓ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ待
遇セラル

第一課勤務ヲ命ス(五回海軍運輸部)

○ 雜 款

○書類發送先ニ關スル件照會

當隊分遣隊長ハ分遣隊職員ニ對シ人事ニ關シ所轄長ノ
職務ヲ執行シ分遣隊ニ於ケル處務ニ關シテハ海軍各處
處務通則ニ依ル廳長ニ準ジ服務スルモノニ付書類發送
ニ關シ留意相成度

(海軍練習聯合航空總隊)

○正誤

五月二十九附公報(部内限)令達欄官房軍第五九八號
本文中「木造運貨船」ハ「特型運貨船」ノ、六月二日
附公報(部内限)通牒欄五三九頁下段軍需第一四二
號中「昭和十八年五月三十一日」ハ「昭和十八年六月
一日」ノ誤

海軍公報(部内限)第四千四百十四號 昭和十八年六月十五日

六〇九

0464

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○ 通 牒

昭和十八年六月十五日 (火)

海軍大臣官房

契庶機密第三八五號

昭和十八年五月二十五日

海軍 經 理 局 長

關係各廳長殿

統制契約ニ關スル件通牒

首題ノ件左記ノ通り契約締結致候條御了知相成度

(追而契約書ハ所要ノ向ニ別途配付ス)

記

統 制 契 約 一 覽 表

統制契約番號	契約品名	請負社	締結月日	期 間
一八經契第〇〇二號	亞鉛鐵板	亞鉛鐵板統制株式會社	一八—四—一	自一八—八—四—三— 至一九—四—三—
一八經契第〇〇九號	織本式オベル	三菱商事株式會社	一八—四—一	自一八—八—四—三— 至一九—四—三—

海軍公報 (部内限) 號外

0465

一八經契第〇一〇號	大藏省式デベル	市川商會	一八—四—一	至自 九—八—四—三—三
一八經契第〇一二號	電線管	鐵鋼販賣統制株式會社	一八—四—一	至自 九—八—四—三—三
一八經契第〇五五號	一號揮發油外八三件	石油配給統制株式會社	一八—四—一	至自 九—八—四—三—三
一八經契第〇五六號	九〇%ベンゾール	日本製鐵株式會社	一八—四—一	至自 九—八—四—三—三
一八經契第〇五七號	カストロール油	日清製油株式會社 日草製油株式會社 柏原製油株式會社 吉原製油株式會社 熊澤製油株式會社 攝津製油株式會社 株式會社奧田製油所	一八—四—一	至自 九—八—四—三—三
一八經契第〇五八號	テレビン油	日本松根油製品統制株式會社	一八—四—一	至自 九—八—四—三—三
一八經契第〇六四號	生亞麻仁油	帝國油糧統制株式會社	一八—四—二	至自 九—八—四—三—三
一八經契第〇六五號	落花生油			
一八經契第〇六六號	胡麻油	日本クロス工業株式會社 東洋クロス株式會社	一八—三—三—二	至自 九—八—四—三—三
一八經契第〇八四號	透寫布			
一八經契第〇八五號	カーバイト	三井物産株式會社	一八—四—一—八	至自 九—八—四—三—三

0466

一八經契第〇八六號	アスファルト	瀝青配給組合	一八—三—三一	至自九八—三四—三一
一八經契第〇八九號	防毒面及防毒服	昭和化工株式會社 日本ゴム株式會社東京支店	一八—三—三一	至自九八—三四—三一
一八經契第〇九一號	洗濯石鹼	日本油脂株式會社 合名會社金谷石鹼製造所	一八—三—三一	至自九八—三四—三一
一八經契第〇九二號	洋蠟	日本油脂株式會社	一八—三—三一	至自九八—三四—三一
一八經契第〇九三號	漆	東洋漆工業株式會社	一八—三—三一	至自九八—三四—三一
一八經契第〇九四號	シヤベ スコツプル	日本シヤベル統制株式會社	一八—三—三一	至自九八—三四—三一
一八經契第〇九五號	セルメ トランド	セメント共販株式會社	一八—三—三一	至自九八—三四—三一
一八經契第〇九六號	アスファルト ルーヒング外三廉	日建工業株式會社 田島應用化工株式會社 新興工業株式會社 日本建材工業株式會社	一八—三—三一	至自九八—三四—三一
一八經契第一一二號	謄寫版及附屬品	堀井新治郎	一八—四—一	至自九八—三四—三一
一八經契第一二二號	グリセリン	硬化油グリセリン統制株式會社	一八—四—一	至自九八—三四—三一
一八經契第一三〇號	クレオソート油	日本製鐵株式會社	一八—四—一	至自九八—三四—三一
一七經契第二五〇號ノニ	石炭 (更改酸)	帝國染料製造株式會社	一八—一—一	至自八八—七一—三

海軍公報 (部内限) 號外

0467

一八經契第一三九號	苛性カリ	保土ヶ谷化學工業株式會社	一八—四—一	至自 九八—二—三
一八經契第一四四號	クエン酸	大崎化學工業藥品店	一八—四—一	至自 九八—三—三
一七經契第二四五號ノニ	硝酸カリ、鹽化カルシウム(更改)	合資會社小西宗七商店	一八—四—一	至自 八八—四—三
一八經契第一五四號	ダイナマイト外八廉	日本火藥統制株式會社	一八—四—一	至自 九八—四—三
一八經契第一七四號	タイヤ及チューブ	日本タイヤ株式會社	一八—四—一	至自 九八—三—三
一八經契第一七七號	自轉車	岡本工業株式會社	一八—四—一	至自 九八—四—三
一八經契第一七八號	リヤカト	愛輪工業株式會社	一八—四—一	至自 九八—三—三
一八經契第一九一號	陸上用電線	古河電氣工業株式會社 住友電氣工業株式會社 藤倉電線株式會社 日本電線株式會社 大日電線株式會社 東京製線株式會社 津田電線株式會社 株式會社日立製作所 昭和電線電纜株式會社	一八—四—一	至自 九八—四—三
一八經契第一九三號	電氣銅			

一八經契第一九三號	鉛		日本金屬配給株式會社	一八—四—	至自 九八— 三四— 三—
一八經契第一九四號	亞鉛				
一八經契第一九五號	錫				
一八經契第一九六號	アンチモン				
一八經契第一九七號	カドミウム				
一八經契第一九八號	水銀				
一八經契第一九九號	鉛管、鉛板、鉛線		日本鉛管鉛板工業組合	一八—四—	至自 九八— 三四— 三—
一八經契第二〇〇號	陸上照明電球		東京芝浦電氣株式會社 エビス電球株式會社	一八—四—	至自 九八— 三四— 三—
一八經契第二〇一號	岩綿製品		日東紡績株式會社 日本アスベスト株式會社 三好石綿工業株式會社 株式會社 五稜石綿紡織所 カナエ石綿工業株式會社 東邦石綿工業株式會社 合資會社 逸見式保溫材料研究所 東洋石綿株式會社 和泉アスベスト株式會社 朝日石綿工業株式會社	一八—四—	至自 九八— 三四— 三—

海軍公報 (都内限) 號外

五

0469

一八經契第二〇二號	硝子綿製品	旭硝子株式會社	一八—四—一	至自 九八—三四—三
一八經契第二〇四號	錫管	合資會社日本鉛管製造所	一八—四—一	至自 九八—三四—三
一八經契第二一五號	船底ペイント類	日本油脂株式會社 中國塗料株式會社 東亞化學製煉株式會社	一八—四—一	至自 九八—三四—三
一八經契第二一六號	電造機工事用 弧熔接棒	株式會社神戶製鋼所 株式會社神戶製鋼所東京事務所	一八—四—一	至自 九八—三四—三
一八經契第二一七號	環狀壓搾紙 帶「復水器用」	東洋フアイバー株式會社	一八—四—一	至自 九八—三四—三
一八經契第二二一號	ピ ア ノ 線 <small>(住友電氣工業製)</small>	住友電氣工業株式會社	一八—四—一	至自 九八—三四—三
一八經契第二六〇號	熔接棒	日本線材製品統制株式會社	一八—四—一	至自 九八—三四—三
一八經契第二六一號	磨帶鋼	日本磨帶鋼統制株式會社	一八—四—一	至自 九八—三四—三
一八經契第二六二號	ドラム罐	東部ドラム罐工業組合	一八—四—一	至自 九八—三四—三
一八經契第二六三號	五ガロン罐	五ガロン罐工業組合	一八—四—一	至自 九八—三四—三
		住友金屬工業株式會社 株式會社神戶製鋼所 株式會社神戶製鋼所東京事務所		

一八經契第五〇七號	燐	寸				
一八經契第〇二六號	リノリウム (建築用ヲ含ム)					
一八經契第〇二七號	紙					
東洋燐紙株式會社	東洋燐紙株式會社	日本燐寸統制株式會社	古河電氣工業株式會社 東洋燐仲銅株式會社 日東金屬工業株式會社 日昭電線仲銅株式會社 株式會社 豊崎仲銅所 三寶仲銅工業株式會社 湯淺仲銅株式會社 阪根金屬商工株式會社 三菱電機株式會社 世田ヶ谷工場 特殊合金株式會社 株式會社 紀長仲銅所 株式會社 日立製作所 權田仲銅所 三谷仲銅株式會社 淀川銅管株式會社 株式會社 清峰仲銅所 中里合名會社 中野仲銅所	一七二二二三	自一七二二二三 至一八一一一三	
一八四四一一	一八四四一一	一八四四一一				
自一八四四一一 至一九三三一一	自一八四四一一 至一九三三一一	自一九三三一一 至一九三三一一				

一八經契第〇三〇號	和 紙 <small>(機械製、手製)</small>	日本和紙統制株式會社	一八—四—一	至自 一八—四—三
板	紙	日本板紙統制株式會社	一八—四—一	至自 一八—四—三

0472

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百十五號

昭和十八年六月十六日(水)

海軍大臣官房

○令 達

官房經第六八四號

一般會計歳入科目中左ノ通追加ス

昭和十八年六月十五日

海軍大臣

歳入臨時部

款	項	目	解	疏	會計科目 電信略號
官有物 拂下代物	物 拂下代品	物 拂下代品	前年度ヨリ繰越タ ル歳入金ニ限ル		スア
雜收入	受 造修收入	海軍受託 造修收入			スキ
		同			スエ
		右			

○通 牒

契一三第一〇〇號

昭和十八年四月一日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

人造研削砥石統制契約實施ニ關スル件照會

首題ノ件左記要領ニ依リ昭和十八年度ヨリ實施可致候
條可然取計相成度

記

人造研削砥石統制契約實施要領

海軍各廳及海軍ノ必要ト認ムル部外工場ニ於テ需要ス

官房艦機密第二九八八號
海軍施設本部補給部ハ海軍共濟組合規則ノ適用ニ關ス
ル限リ之ヲ獨立ノ現業應ト看做ス

昭和十八年六月十五日

海軍大臣

海軍公報(部内限) 第四千四百十五號

昭和十八年六月十六日

六一一

0473

ル人造研削砥石ノ中央統制契約ハ左ニ依リ實施ス

一 品種(規格製造方法詳細別冊第一參照)

丸型砥石、圓筒型砥石、片面傾斜砥石、兩面傾斜砥石、片面凹型砥石、碗型砥石、兩面凹型砥石、溝付砥石、兩面碗型砥石、傾斜碗型砥石、凸型砥石、皿型砥石、オフセット砥石、鋸用皿型砥石、鋸目立用砥石、棒型砥石(角型、三角型、丸型、燕尾型、菱形、半丸型、矩型、橢型)セグメント砥石、軸付砥石(一型—二三型)デイスク砥石、ホーニング砥石、超仕上砥石、切斷砥石、螺子切用砥石、人造油砥石(普通角型)棒型(丸型、角型、三角型、階圓型、半丸型、菱形、丸尖型、橢型)人造白色アランダム油砥石(普通角型)棒型(丸型、角型、三角型、階圓型、半丸型、菱形、丸尖型、橢型)

二 實施期間

毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年間トシ之ヲ左ノ四期ニ分ツ

- 第一期(其年ノ四月—六月)
- 第二期(其年ノ七月—九月)
- 第三期(其年ノ十月—十二月)
- 第四期(翌年ノ一月—三月)

三 所要量調査(様式別冊第二參照)

海軍各需要廳又ハ海軍ニ於テ必要ト認ムル部外工場(海軍工事ニ專用ノモノニシテ最小限度ノ所要量ニ限ル)ハ翌年度所要量ヲ各四半期毎ニ區分シ各品種別ニ別冊第一及第二ニ依リ調査參通ヲ作製シ毎年十月末日迄ニ海軍省經理局(書類ハ海軍艦政本部會計部ニ直送スルモノトス(海軍航空本部關係ノモノハ海軍航空本部會計部經由ノコト))ニ送付スルモノトス

四 數量提示

部外工場ノ所要量調査ハ關係監督長(首席監督官)ヲ經由スルモノトス
海軍省經理局ハ前項所要量ニ基キ需要元別品種別、期別數量提示調査ヲ作製シ製造業者及需要元ニ提示スルモノトス

海軍省經理局ハ右計畫ヲ全國研削砥石工業組合聯合會ニ通知シ研削砥石全體ノ生産計畫トノ調整ヲ計ルモノトス

提示調査ハ海軍省經理局ノ指示ニ依ルニ非レバ變更スルコトヲ得ザルモノトス

五 註文及供給(様式別冊第三參照)

0474

(イ) 需要元本品ヲ發註セントスルトキハ前項提示調書ニ基キ各期別毎ニ取纏メ品種別割當製造業者別註文書三通ヲ作製シ當該期三ヶ月前述ニ海軍省經理局〔書類ハ海軍艦政本部會計部ニ直送スルモノトス(海軍航空本部關係ノモノハ海軍航空本部會計部ヲ經由スルコト)〕ニ送付スルモノトス

(ロ) 海軍省經理局前條註文書ヲ接受シタルトキハ所要ノ調査ヲ行ヒ全國研削砥石工業組合聯合會經由製造業者ニ交付スルモノトス(書類ハ海軍艦政本部會計部ヨリ直送ス)

(ハ) 製造業者註文書ヲ接受シタルトキハ直ニ所定ノ承諾書二通ヲ作製シ一通ヲ註文者ニ一通ヲ經理局(書類ハ海軍艦政本部會計部ニ直送スルモノトス)ニ送付スルモノトス

附則

統制外ノモノト雖モ原材料ノ關係アルヲ以テ直接製造業者ニ註文スルコトナク必ズ所要ノ都度事前ニ圖面寸法等詳細記載必要ノ理由附記ノ上海軍省經理局〔書類ハ海軍艦政本部會計部ニ直送スルモノトス(海軍航空本部關係ノモノハ海軍航空本部會計部經由ノコト)〕ニ協議スルモノトス

海軍公報(部内限) 第四百四十五號

昭和十八年六月十六日

六一三

(別冊ハ所要ノ向ニ配付ス)

教育機密第一六八號

昭和十八年六月十四日

海軍省教育局長

各鎮守府 參謀長殿

内令提
要登載

各警備府 參謀長殿
機雷術特技兵(假稱)臨時講習教程標準ノ件通牒

昭和十四年官房機密第六五八九號ニ依ル首題ノ件別紙ノ通

追テ昭和十四年教育機密第五五號ハ自然消滅ノ義ト了相成度

(別紙添)



○ 辭 令

高雄海軍建築部土木業務囑託

貳千六百貳拾圓 根津 得三

同 村井 久次

(通) 千九百六拾圓

0475

高雄海軍建築部土木建築事務囑託
千六拾圓 高橋 洋三

自今報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給ス(海軍省)

厚生屬 飯塚 長一

南西方面海軍民政府附ヲ免ス

内務屬 大鋸 清二

同 眞門 清一

同 末次 敷

同 中村 寛一

同 西澤 興志雄

農林技手 人見自、治夫

商工屬 坂下 登

第二南遣艦隊司令部附ヲ免シ南西方面海軍民政府附ヲ命ス(以上ハ同)

第二十四設營隊徵用員 才木 芳晴

佐世保海軍建築部ニ配屬ス(ハ同)

○ 雜 款

◎事務開始
大井海軍航空隊上海、青島分遣隊ハ六月一日各々現地ニ於テ事務ヲ開始セリ

追テ給與通牒ハ當該分遣隊資金前渡官吏宛送付相成度

(大井海軍航空隊)

○轉入者被服取立ニ關スル件依頼
自今當隊ニ轉入ノ下士官及兵所持ノ被服物品ハ左記ヲ除キ轉出前前應ニ於テ取立還納ノ上轉入セシメラレ度

品名	數量		品名	數量	
	下士官	兵		下士官	兵
軍衣袴	壹	壹	軍帽	壹	壹
夏衣袴	壹	壹	軍帽前章	壹	壹
帶皮	壹		巾着襟	壹	壹
夏袴下	壹		毛布	參	參
靴下	八	八	衣囊	壹	壹
夏襦袢	壹	壹	蒲團覆乙甲	壹	壹
帽日覆	參	參	カラ	四	
半靴	壹	壹	襟飾		壹

(第二〇二海軍航空隊)

0476

(別紙)

(昭和十八年六月十六日海軍公報(部内限))

機雷術特技兵(復科)臨時講習教程標準

科	本															科					
	敷		設		掃		海		投		射		置		爆		電		氣		
目	取	操	取	操	取	操	取	操	取	操	取	操	取	操	取	操	取	操	取	操	取
兵器學	機雷(九三式)防掃具、新式機雷兵器ノ大要、敷設装置ノ大要																				
敷設法	機雷(九三式)取扱法																				
操法	敷設法ノ大要、敷設(九三式機雷)實習																				
兵器學	掃海具、磁氣機雷掃海具ノ大要、防雷具、水中處分具、測深器、掃海標識																				
取扱法	掃海具取扱法																				
操法	掃海具操法、掃海戰教練																				
兵器學	掃海法ノ大要、掃海實習																				
取扱法	爆雷(九五式、二式)、投射装置																				
操法	爆雷投射機取扱法																				
兵器學	爆雷取扱法																				
取扱法	爆雷取扱法、爆雷戰教練																				
操法	投射法ノ大要、投射實習																				
兵器學	防潜機雷取扱法																				
取扱法	防潜機雷取扱法																				
操法	防潜機雷取扱法ノ大要																				
兵器學	設置法ノ大要、設置實習																				
取扱法	機雷關係火藥火工兵器並ニ爆破兵器ノ大要																				
操法	火藥火工兵器取扱法																				
兵器學	水中爆破操法、陸上爆破操法ノ大要																				
取扱法	水中爆破操法ノ大要、障害物破壊法ノ實習																				
操法	電氣磁氣ノ大要																				
兵器學	電氣磁氣ノ大要																				
取扱法	機雷關係電氣兵器																				
操法	機雷關係電氣兵器																				
兵器學	陸戰、武技、體操、體技、潜水艦ノ大要、航空機ノ大要、運用術ノ大要、信號術ノ大要、救急法、普通學																				
取扱法																					
操法																					

0477

海軍公報 (部内限) 第四千四百十六號

海軍大臣官房

昭和十八年六月十七日(木)

○令 達

官房經機密第三五五號
當分ノ間・特設航空輸送隊ニ於テ第一及第二搭乗配置ニ在ル者ハ海軍航空隊ニ於テ第一及第二搭乗配置ニ在ル者ニ準ジ航空加俸ヲ支給スルコトヲ得
本令ハ昭和十八年五月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス
昭和十八年六月十六日
海軍大臣

官房經第六八八號
昭和十七年官房第九七二號申左ノ通改正ス
昭和十八年六月十六日
海軍大臣

第一號ニ左ノ一項ヲ加フ
前二項ノ規定ハ戰地ヨリ戰地外各地ニ出張ヲ命ゼラレタル者及戰地外各地ト戰地間ヲ赴任又ハ轉勤旅行ヲ爲ス者戰地内ノ同一地ニ滞在スルトキニ之ヲ準用

ス
第四號中「部隊ノ移轉又ハ基地進出ノ爲」ヲ「部隊共ノ他各部ノ移轉若ハ基地進出又ハ其ノ他ノ隊伍旅行ニ依リ」ニ改ム
第五號ヲ第八號トシ第五號乃至第七號トシテ左ノ三號ヲ加フ
五 前各號ニ該當スル者官費ヲ以テ入院シ治療ヲ受クルトキハ入院ノ翌日ヨリ退院ノ前日迄旅費ヲ支給セズ
六 戰地ニ於テ旅行中所在不明ト爲リタル者ニハ其ノ翌日ヨリ旅行ニ就キタル日ノ前日迄旅費ヲ支給セズ
七 戰地外各地ト戰地間ヲ赴任又ハ轉勤シ家族移轉料ノ支給ヲ受クル者家族ノ移轉ノ爲ノ旅行ガ本邦内ナル場合ハ海軍内國旅費規則第六表備考第二號ニ依リ移轉料ヲ支給シ海軍南洋群島關東州滿洲旅費規則第二十五條、海軍外國旅費規則第二十二條及昭和十四年官房第三八九四號別表第三備考第四號ノ規定ニ依

海軍公報 (部内限) 第四千四百十六號

昭和十八年六月十七日

六一五

0478

ル荷物運賃ハ之ヲ支給セズ

(参照) 昭和十七年官房第九七二號ハ戦地ニ旅行スル者ノ旅費ニ關スル件ナリ

官房需第一三四號

當分ノ間學生又ハ講習員タル士官(豫備士官ヲ含ム)ニシテ學校ニ起臥スル者ニハ必要ニ應ジ海軍給與令第八十八條ニ依リ糧食ヲ給スルコトヲ得

昭和十八年六月十五日

海軍大臣

○通牒

官房空機密第一〇九〇號

昭和十八年六月十五日

海軍省副官

關係各廳長殿

航空兵器保管供給所名稱變更ノ件中改正ノ件通知

昭和十六年官房機密第八九九三號首題通牒申左記ノ通追加セラレ候

記

第二海軍航空廠大阪補給工場ノ次ニ左ノ如ク加フ	愛知縣渥美郡老津村	第二海軍航空廠豐橋補給工場
靜岡縣榛原郡勝間田村	第二海軍航空廠大井補給工場	
第十一海軍航空廠德島補給工場ノ次ニ左ノ如ク加フ	香川縣三豐郡詫間村	第十一海軍航空廠詫間補給工場
第二十一海軍航空廠日宇補給工場ノ次ニ左ノ如ク加フ	長崎縣佐世保市崎邊	第二十一海軍航空廠崎邊補給工場
長崎縣佐世保市廣畑	同	廣畑補給工場
長崎縣佐世保市平瀬	同	平瀬補給工場
第二十一海軍航空廠出水補給工場ノ次ニ左ノ如ク加フ	鹿兒島縣鹿兒島市	第二十一海軍航空廠鹿兒島補給工場
第二十一海軍航空廠上海補給工場ノ次ニ左ノ如ク加フ	中華民國青島特別市	第二十一海軍航空廠青島補給工場
官房第六七八號		

昭和十八年六月十六日

0479

在京各廳長殿

海軍省副官

水交社利用ニ關スル件申進

近時社員ノ急増ニ伴ヒ水交社ノ施設、使用人等極メテ窮屈ナル狀況ナル處更ニ市中ニ於ケル食料品等不如意ノ爲部外者ヲ主トスル宴會等ニ水交社ヲ利用スル尙尠カラズ惹テ社員ノ利用ヲ益々拘束スルノミナラズ時節柄一般部外ニ對シテモ面白カラザル影響ヲ與フル處アルニ付首題ノ件ニ關シ社員自身ニ於テモ充分留意セララルル様可然取計ハレ度

契七第三號ノ五四

昭和十八年六月十五日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

海軍工具統制契約實施要領申改正ノ件通知

昭和十七年十月二十六日契第十三號ノ七照會首題要領中左記ノ通改正致候條可然取計相成度

記

一 第三號及第五號(イ)中海軍艦政本部會計部(以下艦本會計部ト稱ス)ヲ海軍省經理局(書類ハ海軍艦政

本部會計部又ハ海軍航空本部會計部ニ直送)ニ改ム
二 第四號及第五號(ロ)中艦本會計部ヲ海軍省經理局ニ改ム

三 附則第二號中艦本會計部ヲ海軍艦政本部會計部又ハ海軍航空本部會計部ニ改ム

四 別表第一及第二中海軍艦政本部會計部ヲ海軍省經理局(艦本會計部又ハ航本會計部)ニ改ム

軍需糧第二八號

昭和十八年六月十七日

海軍省軍需局長

海軍省經理局長

關係各廳長殿

生獸魚肉換給品申改正ノ件通牒

昭和十七年軍需糧第一四三號中左記ノ通改メラレ候

記

乾魚肉ノ項(鰹節)ノ次ニ左ノ如ク加フ

(無骨乾燥魚肉(鰹、鰯)ハ 五〇)

鶏卵ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ(粉末鶏卵ノ追加ハ第二十表該當ノ分ノミ)

海軍公報(部内限)第四千四百十六號 昭和十八年六月十七日

六一七

0480

冷	鷄	卵	七五
紛	末	鷄	卵
			二五

(參照) 昭和十六年軍需糧第一四三號(昭和一六、八、二〇海軍公報(部内限))

艦本機密兵無線第三七四號

昭和十八年六月十一日

海軍艦政本部總務部長
海軍航空本部總務部長

橫須賀、吳、佐世保、舞鶴海軍軍需部長
航空技術廠總務部長
第一、第二、第十一、第十四、第二十一、第三十一、第四十一、第五十一、第六十一、第六十二、海軍航空廠長
十一、第五十一、第六十一、第六十二、海軍航空廠長
霞ヶ浦、木更津、横須賀、鈴鹿、吳、佐世保、岩國、大分、佐伯、大村、舞鶴、各應

殿

外戰部隊、外地所在海軍航空廠ニ對シ
空輸補給スル航空機ニ裝備スベキ無線
兵器ノ裝備實施、處理其ノ他ニ關スル
件中改正ノ件照會

昭和十七年一月十四日艦本機密兵無線第一〇號(昭和

十七年一月十四日海軍公報(部内限) 第三九九三號參照) 首題照會中昭和十八年六月一日ヨリ左記ノ通改正セラレ候

記

一 「軍需部」ヲ「航空廠」ニ、「海軍艦政本部」ヲ「海軍航空本部」ニ改ム

二 二項分擔中「橫須賀海軍軍需部」ヲ「第一、二海軍航空廠」ニ、「吳海軍軍需部」ヲ「第一海軍航空廠」ニ、「佐世保海軍軍需部」ヲ「第二海軍航空廠」ニ、「舞鶴海軍軍需部」ヲ「第三海軍航空廠」ニ改ム

○ 辭令

海軍軍醫大佐	宮尾 績
海軍軍醫中佐	種子田 庸夫
同	村上 哲
同	野田 鐵夫
同	遠藤 忠孝
同	田代 恭助
同	村上 三郎

(各通)

海軍軍醫少佐
 山形 勝治
 野津 快造
 高野 二郎
 野田 浩一郎
 濱崎 静雄
 青木 式
 小河 九一郎
 三浦 温太郎
 佐藤 武夫
 中森 義郎
 土屋 安佳
 石井 清
 相川 修
 榎村 實
 勝 正敏
 高井 英一郎
 石原 久米雄
 叶山 常吉
 陸 四郎
 小幡 健吉
 三浦 不二夫

海軍軍醫大尉
 八太 通夫
 正田 文雄
 樋口 賢
 西村 實
 吉野 彦助
 高橋 久雄
 宮田 治夫
 犬塚 泰三
 細見 正二
 中村 義一
 吉田 邦寧
 横田 邦夫
 小川 眞也
 山本 巖
 山田 萬次郎
 堀 慶介
 高橋 正治郎
 野村 秀生
 大倉 正二郎
 高村 千吉

0483

○ 雜 款

同	大橋 靜
同	土屋 弘吉
同	森田 茂
同	篠原 敏夫
同	片岡 佑朔
同	羽田 春兎
同	高橋 忠
同	高橋 正文
同	重藤 俊夫
同	内齒 耕二
同	藤島 隆
同	押味 賢吾
同	岡本 俊次郎
同	古川 弘平
同	海軍軍醫中尉 島雄 昭美

昭和十八年六月二十五日乃至七月八日施行ノ海軍兵學校海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試験(身體検査)臨時委員ヲ命ス(大阪海軍省)

○海上運輸調書通報ノ件照會
海上運輸費徵收手續第三條ニ依リ積卸又ハ輸送ヲ爲シタル艦船部隊其ノ他各部ニ於テハ海上運輸調書式通ヲ作成シ之ニ規程所定ノ請求票又ハ願書ノ寫ヲ添附シ遲滞ナク費用負擔者所管ノ海軍經理部ニ通報ノコトニ規定セラレ居候モ當部ニ於テハ右通報遲延若クハ不着ノ爲海上運輸費徵收事務處理上困却致居候ニ就テハ關係各部ニ於テハ首題調書遲滞ナク送付方取計相成度
(大阪海軍經理部)

○正誤
十一日附公報(部内限)號外一頁「官房機密第一號ノ九七」トアルハ「官房艦第一號ノ九七」ノ誤

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百十七號

昭和十八年六月十八日(金)

海軍大臣官房

○通 牒

教育機密第一七一號

昭和十八年六月十六日

海軍省教育局長

内令提
要登載

横須賀、吳鎮守府參謀長殿
關係各學校長
海上交通保護關係事項教育ニ關スル件申進
首題ノ件左記ノ通定メラレ候條然ルベク實施相成度
記

<table border="1"> <tr> <td>學校名</td> <td>海軍大學校</td> </tr> <tr> <td>教育事項</td> <td>海上交通保護關係作戦用兵事項及一般</td> </tr> </table>	學校名	海軍大學校	教育事項	海上交通保護關係作戦用兵事項及一般	<table border="1"> <tr> <td>備考</td> <td>一 關係各部ハ相互連絡ヲ密接ニスルモノトス 二 航空關係ニ關シテハ横須賀海軍航空隊ト連絡ヲ密接ニスルモノトス</td> </tr> </table>	備考	一 關係各部ハ相互連絡ヲ密接ニスルモノトス 二 航空關係ニ關シテハ横須賀海軍航空隊ト連絡ヲ密接ニスルモノトス								
學校名	海軍大學校														
教育事項	海上交通保護關係作戦用兵事項及一般														
備考	一 關係各部ハ相互連絡ヲ密接ニスルモノトス 二 航空關係ニ關シテハ横須賀海軍航空隊ト連絡ヲ密接ニスルモノトス														
<table border="1"> <tr> <td>一 護衛艦艇ノ對潜攻撃</td> <td>二 對潜兵器ヲ以テスル船舶ノ自衛及航路ノ保護</td> </tr> </table>	一 護衛艦艇ノ對潜攻撃	二 對潜兵器ヲ以テスル船舶ノ自衛及航路ノ保護	<table border="1"> <tr> <td>海軍機雷學校</td> <td>三 海上交通保護制度</td> </tr> <tr> <td>海軍航海學校</td> <td>四 護衛上航空機ト對潜攻撃艦艇トノ協同法</td> </tr> <tr> <td>海軍潜水學校</td> <td>五 護衛實施法</td> </tr> <tr> <td>潜水艦側ヨリ見タル對潜攻撃、回避</td> <td>一 船舶ノ信號、見張、航海、保安、應急</td> </tr> <tr> <td></td> <td>二 船團ノ編制航行隊形</td> </tr> <tr> <td></td> <td>三 海上交通保護要務一般</td> </tr> </table>	海軍機雷學校	三 海上交通保護制度	海軍航海學校	四 護衛上航空機ト對潜攻撃艦艇トノ協同法	海軍潜水學校	五 護衛實施法	潜水艦側ヨリ見タル對潜攻撃、回避	一 船舶ノ信號、見張、航海、保安、應急		二 船團ノ編制航行隊形		三 海上交通保護要務一般
一 護衛艦艇ノ對潜攻撃	二 對潜兵器ヲ以テスル船舶ノ自衛及航路ノ保護														
海軍機雷學校	三 海上交通保護制度														
海軍航海學校	四 護衛上航空機ト對潜攻撃艦艇トノ協同法														
海軍潜水學校	五 護衛實施法														
潜水艦側ヨリ見タル對潜攻撃、回避	一 船舶ノ信號、見張、航海、保安、應急														
	二 船團ノ編制航行隊形														
	三 海上交通保護要務一般														

海軍公報 (部内限) 第四千四百十七號

昭和十八年六月十八日

六二三

0485

海軍省 經理局長
海軍艦政 本部長

關係 各廳長
各海軍監督長、首席監督官 殿

日鐵社外註文鋼材整理ニ關スル件照會

鐵鋼販賣統制株式會社(以下單ニ鐵鋼販ト稱ス)ニ對スル辰、巳契約(十五、十六年度)ノモノニシテ昭和十八年五月末迄ノ未發送分ハ左記ニ依リ整理ノコトニ取計相成度

記

- 一 鐵鋼販ニ對スル十五年度及十六年度契約ノモノニシテ五月末迄ニ未發送ノ分ニ付契約ヲ解除スルモノトス
- 二 鐵鋼販ヲシテ前號該當ノモノニ付各註文元別約定別調査表貳通ヲ作製各註文元及關係部局ニ提出セシム
- 三 各註文元ハ前號調査表ニ依リ註文取消ノ手續ヲナスモノトス
- 四 一號該當分ニ對スル前拂金ハ鐵鋼販ヲシテ返納セシムルモノトス
- 五 本照會ノ取消分ニ對スル違約金ハ徵取セザルモノトス

トス

〔附記〕

三月十七日艦本第八號ノ一〇六八照會ニ依ル日鐵鋼材ノ註文取消分ニ對シテモ違約金ハ徵收セザルモノトス

海運機密第四二號ノ二

昭和十八年六月十五日

海軍運輸部長

各廳長 殿

内地南西方面及内南洋方面海上定期便取止ノ件通牒

海運機密第四二號ニ依ル首題ノ件當分ノ間取止メラレ候

○ 辭 令

東京海軍通信隊附ヲ命ス
通信技手 佐々木房吉

(各通)
機械工員 第老原梅吉
同 峰岸 勇

東京海軍通信隊附ヲ命ス
但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上皆海軍省)

海軍運輸部附ヲ命ス

遞信屬 出田 宗雄

集配員 小林 柳

第十二海軍軍用郵便所員ヲ免ス(以上^同)

南東方面海軍航空廠第一支廠

海軍主計中尉 千葉 剛太郎

サイパン分工場

海軍主計大尉 ~~石川~~

バラオ分工場

同 瀧田 信義

各肩書ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計兵曹長 中澤 安平

幌筵海軍通信隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(以上^同支出官 海軍省經理局長)

海軍主計中尉 堀田 正之

第一百海軍燃料廠タラカン支廠ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計大尉 屬 義 雄

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上^同)

第四課勤務ヲ命ス(海軍省經理局)

海軍主計中尉 松本 正久

○ 雜 款

○司令驅潛艇變更
第六十五驅潛隊司令ハ六月二日司令驅潛艇ヲ宇治丸ニ變更セリ

○書類誤送ニ付留意ノ件

當部(八建ト略稱)ト第八海軍建設部(八建設ト略稱ヲ望ム)トハ名稱近似ノ爲内外地ヨリ電報其ノ他重要書類ニシテ互ニ誤送ヲ受クルモノ往々有之其ノ都度餘分ノ手數ヲ費シ居ルノミナラズ事務處理上不都合ノ事態モ有之ニ付關係各部ニ於テハ宛先符號ニ留意セラレ度又電報ノ取扱ニ當リテハ兩廳ヲ混同セラレザル様特ニ留意ヲ得度
(第八海軍建設部)

○開隊

大井海軍航空隊青島分遣隊ハ五月二十六日青島滄口飛行場ニ於テ開隊セリ

詫間海軍航空隊ハ六月一日開隊セリ

横須賀鎮守府第二特別陸戰隊ハ六月十日開隊セリ

海軍公報(部内限)第四千四百十七號

昭和十八年六月十八日

六二五

0487

○事務開始
當隊六月一日事務開始ニ付各種練習生採用試験問題ニ
部送付相成度
(霞ヶ浦海軍航空隊千歳分遣隊)

○事務所移轉

富高海軍航空隊 (假稱) 設立準備事務所ヲ六月二十五
日左ニ移轉ス
福岡縣築上郡築城村 築城海軍航空隊内

○事務所撤去

能代艦裝具事務所ハ六月十四日撤去セリ

○訂正

五月五日附公報 (部内限) 號外辭令欄三頁上段十一行
目「尾松 綠、岡 廣行、北山 茂」ノ發令月日「昭
和十六年十二月八日」ハ「昭和十七年七月一日」ニ
同一頁上段十行目「柳岡積次」以下十名ノ發令月日
「昭和十七年十月四日」ハ「柳岡積次、古田領一、井本
正次郎、住吉正儀、今村 恣、筒井武雄、森本幸壽」
ハ「昭和十六年十月十五日」ニ、「村重頼、大川達也」
ハ「昭和十六年十二月二十八日」ニ、「関 七重郎」ハ
「昭和十七年五月八日」ニ孰モ訂正

○正誤

六月十一日公報 (部内限) 號外官房軍第六五一號公稱

第五六八二號ノ項中「吳海軍建築部」ヲ「横須賀海軍
建築部」ニ改メ備考欄ニ「南洋方面工事用」ヲ脱ス